

志木市立志木第二小学校：公開研究会（令5・6・26）

## 「小中一貫の学級活動」の意義と実践課題

——「望ましい集団活動」を生かす学校・教師——

（宮川）

### ○ はじめに

- 大荒れの小中学校が驚きの変容を！  
（→「今回の改訂に生かされた2つの事例」から！）
- 「小中一貫の学級活動」の取組の広がり！

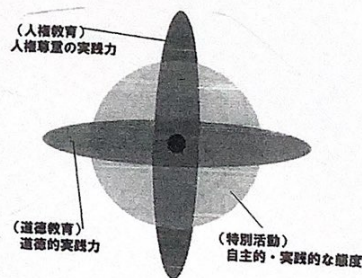
### I 「年度初めの学級経営・学級活動スタート7つの実践課題」への取組

- 1 「始業式・入学式」から始まる人間関係づくり
- 2 「4月に行う学級活動3つの授業」

### II 「学級活動2つの指導法」への確かな取組

- 1 「目指す実践的態度」と「2つの指導法」
- 2 「学級活動(1)（自発的、自治的活動）」の充実
- 3 「望ましい議題例」と  
オリエンテーションの工夫

各種今日的教育課題の重なるの構想



### III 「係活動」の活性化

- 1 「特質を生かす指導」の充実
- 2 「係決め」等の押さえどころ

### ○ おわりに

- ①「集団活動を生かす学校・学級経営」の工夫など
- ②「指導資料集」及び「やき先生の学校童話集（6編）」の活用

資料5

I 「学習指導要領の理念」を生かす学校経営

1 現代課題としての『持続可能な社会の創り手』の育成

【前文】

「これからの学校には、(略)一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。(略)

2 教育課程全体で取り組む SDGs (持続可能な開発目標)

(1) 「ESD」と「SDGs」とは何か(※別添資料(2・3) →国連からの要請課題(地球市民意識の育成！)

(2) 学習指導要領における「持続可能な社会づくりの教育」

第1章「総則」第1の3

「(略)豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に生きる力を育むことを目指す児童に、(略)」

第2章「各教科」第8節のC消費生活、環境

「(略)持続可能な社会の構築に向けて身近な消費生活と環境を考え、工夫する活動を通して、(略)」

第3章「特別な教科 道徳」第3の2(6)

「(略)例えば、持続可能な社会の発展などの現代的な課題の取扱いにも留意し、身近な社会的課題を自分との関係に於いて考え、それらの解決に寄与しようとする意欲や態度を育てよう努めること。(略)」

(3) 「教育振興基本計画」や「令和の日本型学校教育」との関係

① 「教育振興基本計画」

「教育基本法の改正(平成18年)の理念の実現に向けた具体的な方針を、政府(中央教育審議会)は、「社会状況」や「教育の実態」を見て、5年間毎のスパーンで国会に報告する。(都道府県等においても作成)

第1期 教育基本振興計画ー(平成20年～平成24年)

第2期 教育基本振興計画ー(平成25年～平成29年)※

第3期 教育基本振興計画ー(平成30年～令和4年)

第4期 教育基本振興計画ー(令和5年～令和9年)? 現在検討中

注目すべきは、第II期 教育振興基本計画で示した「3つの理念」(『自立』、『協働』、『創造』)の課題を、第III期以降も継続することとしたこと。

資料1 小学校学習指導要領における「学級経営」

○ 「総則」第4の1

「(1) 学習や生活の基盤として、教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。(略) (※ 前段は 中学校にも明記)

資料2 小学校学習指導要領 第6章 特別活動における「学級経営」

— 第3「指導計画の作成と内容の取扱い」1の(3)

○ 「学級活動における児童の自発的、自立的な活動を中心として、各活動と学校行事を相互に関係付けながら、個々の児童についての理解を深め、教師と児童、児童相互の信頼関係を育み、学級経営の充実を図ること。その際、特に、いじめの未然防止等を含めた生徒指導との関連を図るようにすること。(略) (※中学校にも明示)

資料3 中学校学習指導要領 第5章 特別活動 ※「小中一貫の課題」

— 第2(学級活動) 3「内容の取扱い」

(1) 「2の(1)の指導に当たっては、集団としての意見をまとめる話し合い活動など小学校からの積み重ねや経験を生かし、それらを発展させることができるよう工夫すること

資料4 学級経営の内容

A 学校教育目標、重点課題等に関する基本姿勢

— (学級の実態を踏まえた学級担任としての学級教育の方針(学級教育目標の設定)など)

I 学級における教育課程の実践・経営

(学級組織、教科領域等の充実に向けた指導に関して学級の実態を踏まえた効果的な展開、評価計画など)

ウ 学級における教室(環境)経営

(教室環境構成、掲示等の計画、座席配置、美化や安全など)

エ 学級における集団経営

(児童・生徒理解、人間関係や雰囲気づくり、集団活動や生活指導等の指導、教育相談の計画など)

オ 学級におけるその他の経営

(保護者・地域等との連携、校内・学年組織の役割、学級事務など)

— ※「小学校生徒指導資料6」(平成元年：文部省)から一言加筆など

「新年度スタートに向けて」

「4月の学級経営・学級活動スタート7つの実践課題」

学級経営

①「出会い」の関係づくり

- ア 教師と児童生徒との親和的關係づくりを工夫する。
- イ 始業式、入学式の日に行く。
- ウ 教師の自己紹介、人間的触れ合いの演技などの演出をする。  
(保護者にアンケート「どんな〇年生になってほしいか」を配布)

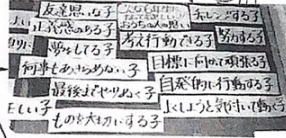


「保護者へのアンケート」の配布



②「学級目標」づくり

- ア 「目指す児童(生徒)像」を学級目標として提示する。
- イ 始業式、入学式から数日後に行く。  
(保護者の願い、児童生徒の思い、学校の願いを教師が統合し、知・徳・体の人格形成目標を設定する)
- ウ 例えば、教室の前面の黒板の上などに掲示する。



保護者の願い



子供たちの思い

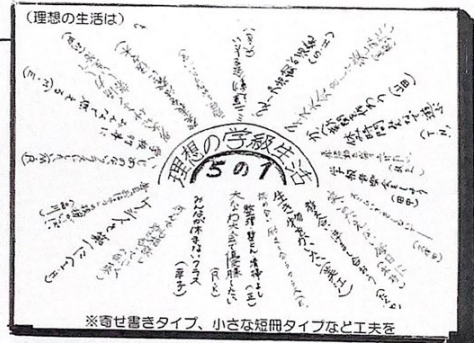
③「学級の組織」づくり—その1

- ア 清掃などの当番(生活班)の組織や児童(生徒)会の委員会の組織などを編成し、所属を決定する(中学校の教科担当も当番)。
- イ ②の前後に行う。
- ウ 学校の基本方針の下に編成し、教室の壁面などに掲示する。

学級活動

④「理想・めあて」づくり

- ア 児童生徒一人一人の抱く「理想の学級生活のイメージ」を学級全員が共有し、各自が新しい学年の努力目標を設定する。
- イ 学級活動の授業(例「〇年生になって」)として実施する。  
(学習や人間関係などに関する不安を解消し、期待感を高め、新しい学年での個人目標(学習・生活・運動など)を設定する)
- ウ 「理想の学級生活」「個人目標」は教室の壁面などに掲示する。



(学級経営)

⑤「学級の組織」づくり—その2

- ア 計画委員会や係などの自治的活動の組織づくりのオリエンテーションを行う。
- イ 係活動について、当番との違いを理解して学級会で話し合っ て決めることができるよう準備をする。



①

⑥「実践活動」づくり

- ア 学級会の活動や集団活動による実践活動をスタートする。
- イ ⑤の後に「進級お祝いの会の計画を立てよう」「転入生を迎える会をしよう」などの学級会やその後の児童生徒による自発的・自治的な実践活動に取り組めるようにする。
- ウ 背面黒板等に例えば「学級活動コーナー」なるものを設置し、活動計画や実践状況を掲示するなど工夫する。



②

⑦「評価・改善」づくり

- ア 学級経営案5段階完成法の第1段階計画の実際を振り返り、その後の指導の見直しを立てる。
- イ 4月末か5月の連休前の区切りとなるときに行う。
- ウ 教師から児童生徒に振り返りの結果を朝の会などで説明する。

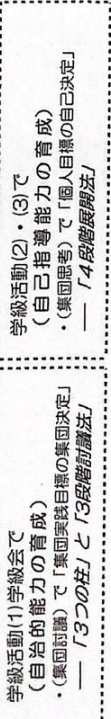


③

(※①-⑦のア=「ねらい」、イ=「いつやるか」、ウ=「どうやるか」の展開)

資料7 「学級活動の2つの指導法（基本型）」とは？

1 「学級活動が目指す「2つの育成する力」



2 「2つの指導法(基本型)」— 準備・授業展開・実践の指導など

(1) 学級活動(1)学級会 “自分もよくみんなをよむこと”  
— (特質) 共同の問題、集団討議による集団決定 (合意形成)、集団実践  
○ 問題発見…議題箱、提案コーナー、オリエンテーション  
○ 議題の整理…計画委員会 (種数の中から選定)  
○ 議題の決定…学級全員  
○ 活動計画の作成と承認…計画委員会、学級全員 →※学級会ノートに記入

○ 本時の話し合い (学級会)

(3つの柱)	事前に発問しておく (BC型の場合)
話し合うこと1 (何をするか)	① (出し合う) ② (比へ合う) (まとめる (決める))
話し合うこと2 (どうやるか)	④ (出し合う) ⑤ (比へ合う) (まとめる (決める))
話し合うこと3 (役割の分担)	⑦ (出し合う) ⑧ (比へ合う) (まとめる (決める))

→A①~⑨ B②~⑩ C②~⑥ D④~⑨ E①~⑥

【指導のポイント】  
A ①~⑨…本時 (出し合う) から開始。  
B ②~⑩…①は事前にしておく。② (比へ合う) から開始。※ (推奨型)  
C ②~⑥…①は事前に。時間の関係で「話し合うこと3」は、翌日等で実施。  
D ④~⑨…議題や時間の関係で「話し合うこと1」は、事前に決めておく。  
E ①~⑥…時間の関係で「話し合うこと3」は、翌日等で実施。

※B・Cを②から開始するのは、全体の時間的考慮と事前に柱1の案の理解の上で (比へ合う) 段階の話し合いを効果的に進められるようにするための工夫。

(2) 学級活動(2)・(3)  
— (特質) 共通の問題 (課題) 集団思考を通じた自己決定 (意思決定)、個人実践

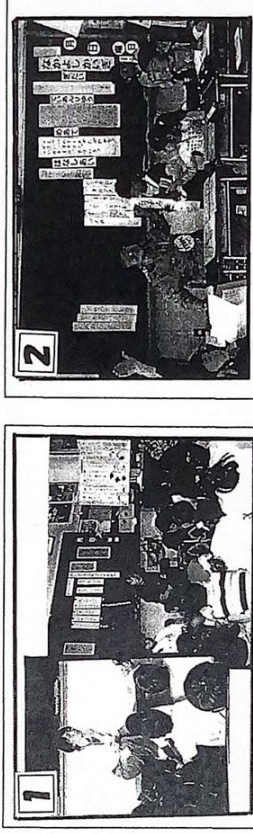
○ 「学校の年間指導計画」から  
○ 授業構想…指導案  
○ 資料作成…段階毎、発達の段階を踏まえた資料づくりの工夫

○ 本時の話し合い (4段階展開法)

導入 (1) 問題 (課題) の把握	※児童の考えを生かして、教師から適切な指導事項を提示する。
展開 (2) 原因の追求	
終末 (4) 個人目標の自己決定 (めあてカード)	

□ 「学級会」：発達の段階に応じた指導

1 「計画委員会の指導」  
(一) 小学校入門期の計画委員会と教師の役割・位置 (一)

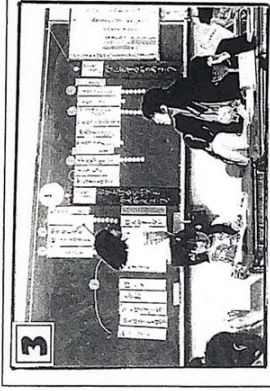


小1 4月から (1学期)

※教師が司会をして会を進める。  
例えば、「どうぞよろしくのかい」でやり方を話し合っ、実際に会をします。立って発表する際の姿勢や声の大きさ、拍手の仕方などを教えるが、①やることを決め、②約束事を1~2決める。

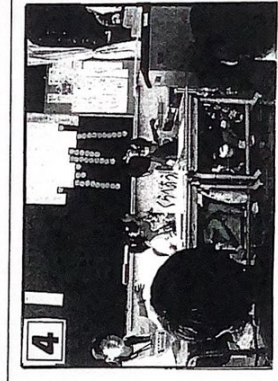
小1 9月から3学期

※教師の司会に児童も一緒にやる。  
教師が司会の中心になって進めるが、児童にもそれなりの役割を分担させながら一緒に進めるようにする。



小1の3学期末から2年生

※児童のすぐ後ろに位置し、助けが一緒にやる。  
進行マニュアルで児童が多くを進行するが、まだ教師が「回谷と黒板の〇〇先生です」と言って一緒に進行する。



3年生以上

※教師は離れて児童が中心に進める。  
1~2年生の経験を生かして、話し合いのほとんどを計画委員の児童で進行できるようにするが、必要に応じて助言をする。

## 「1年生の学級活動(1)学級会」の実践

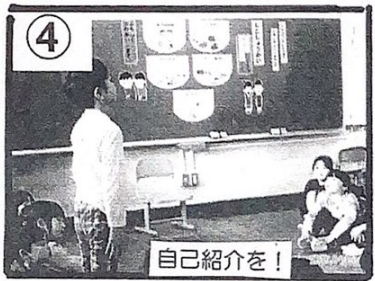
八木郷小学校 1年「どうぞよろしくねのかいをしよう」



① この日の朝、児童集会で、「1年生をむかえる会」が行われた。



② フルーツバスケットが決まって…



④ 自己紹介を!



31.4.15



## 「2年生の学級活動(1)学級会」の実践

八千代市立大和田小学校 2年「2年生もがんばろうねの会をしよう」

① 大きな声で歌を!

② 先生もすぐ後ろで!

④ プログラム案

「分類」をみんなと一緒に!

⑤

⑥

「きまっていること」をみんなて読む!

「きまったこと」をみんなて確認を!

資料11

① 歌

第1回 学級会

議題 「中一ともくく念」による

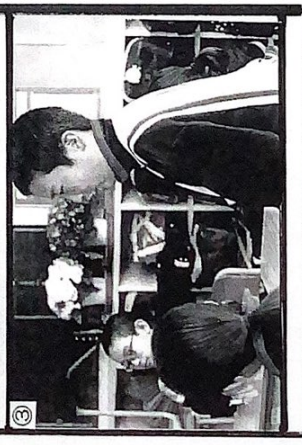
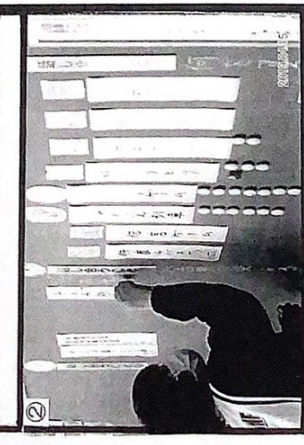
理由 中学校へ入学し、新しい仲間と交流し、互いに支えあうこと。

議題 学年行事の計画を立てよう

理由 学年行事の計画を立て、協力して実施しよう。

議題 学年行事の計画を立てよう

理由 学年行事の計画を立て、協力して実施しよう。



資料12

- ①
- クリスマス会やシーク先生を囲
  - はじめの言葉
  - 計画委員の紹介
  - 議題の確かめ
  - 提案理由の発表
  - 話し合い
  - ①何をするか
  - ②盛り上げる工夫
  - 役割分担
  - 決まったことの発表
  - 先生の話
  - 振り返り
  - 終わりの言葉

帯根中学校1年2組 議題「仲間先生やシーク先生を囲んでクリスマス会をしよう」

②

第十二回 全学級会

議題 何をするか

理由

議題

理由



④

議題 何をするか

理由

議題

理由

資料13

帯根中学校2年1組 議題「教育実習の先生へ感謝を伝えよう」

①

第5回 学級会

議題 教育実習の先生へ感謝を伝えよう

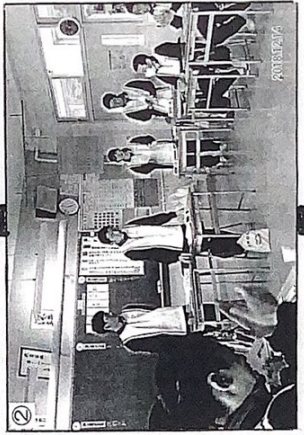
理由 教育実習でも世話になった和氣先生へもう一度感謝を伝えたいから

議題 学年行事の計画を立てよう

理由 学年行事の計画を立て、協力して実施しよう。

議題 学年行事の計画を立てよう

理由 学年行事の計画を立て、協力して実施しよう。



③

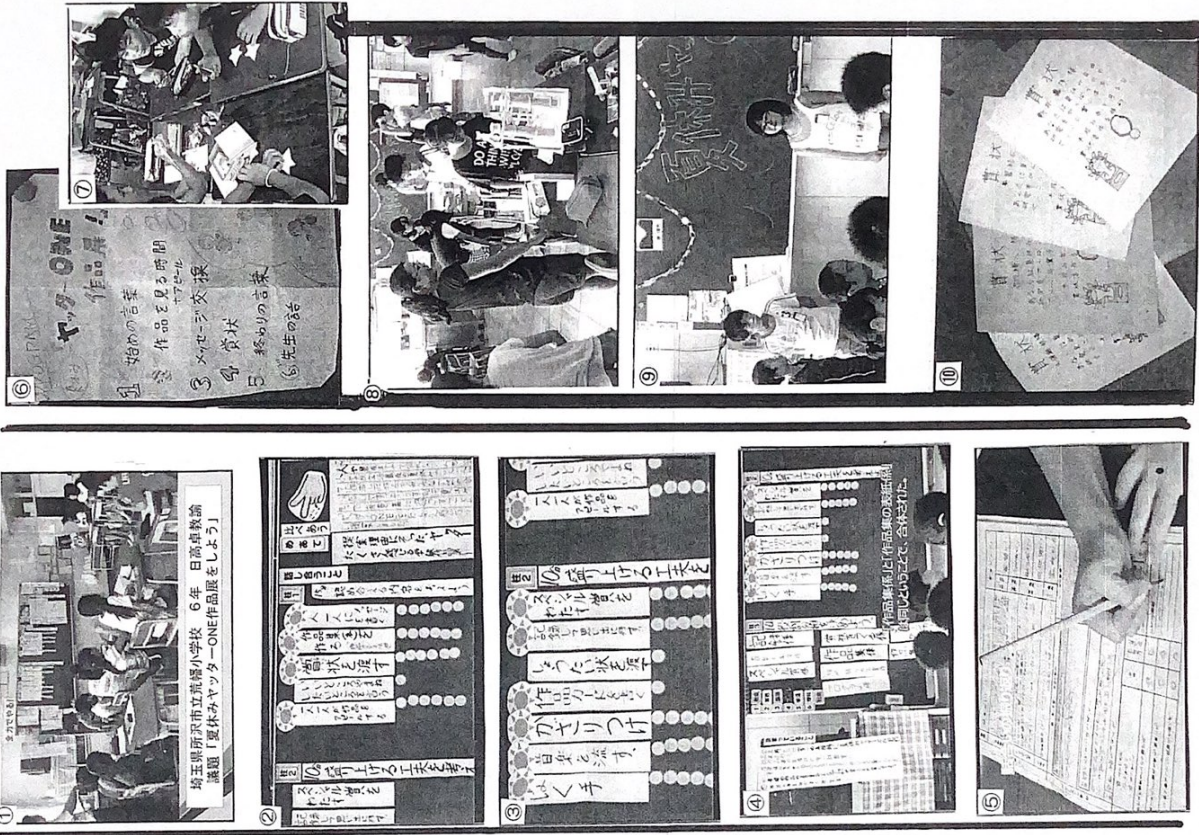
議題 何をするか

理由

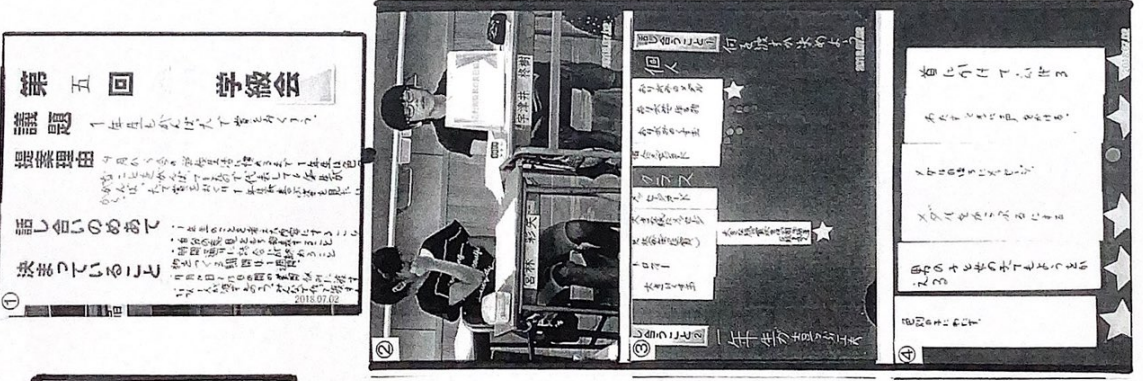
議題

理由

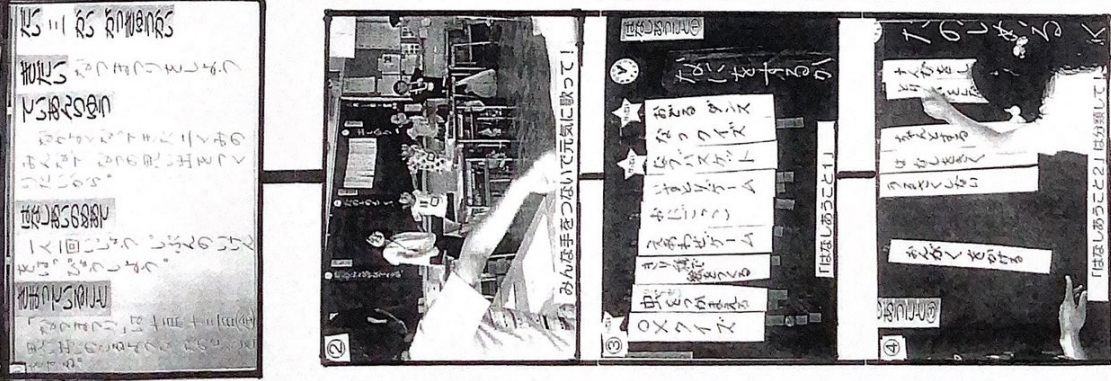
資料 16



資料 15 富士市立藤部小学校 6年



資料 14 坂戸市立片柳小 2年  
議題「ぼつまつりを通して」



資料17<「学級会」の準備、活動などへの指導のポイント>

活動場面等	低学年	中学年	高学年	
1 議題集め	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に1年生では、教師から2～3の案を提示して選ばせるようにする。</li> <li>2年生では、1年生の経験などから議題を提案できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の生活の中から、学級会にふさわしい問題(議題案)を見いだし「議題ポスト」や「提案コーナー」などに提案できるようにする。</li> <li>適宜オリエンテーションで、「予想される議題例」を話題にし、望ましい議題案について考えることが出来るようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「1週間の活動計画」にしたがって計画委員会を行い、議題案を整理し、積数の中から選定して学級全体に諮り、議題を決定できるようにする。</li> <li>「活動計画」を作成し、それを学級全員に知らせる。各自が自分の考えを「学級会ノート」に記入したら計画委員に提出させる。</li> <li>議題等によって計画委員を増員するなど工夫できるようにする。(黒板記録など)</li> </ul>	
2 計画委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>準備会を先生が説明しながら行って見せる。(1年生)</li> <li>「活動計画」に先生が記入しながら、徐々に先生のお手伝いを輪番で経験させる。</li> <li>1年生の後半から「学級会ノート」に書けるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生も一緒に「活動計画」を書きながら準備をする。</li> <li>進行に困る言葉遣いなどを練習させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生も一緒に「活動計画」を書きながら準備をとめるなどとして整理し、短冊に書いて「学級活動コーナー」に掲示する。</li> <li>実践のための「条件」を明確にし、多くのごことを決め過ぎないように留意する。</li> </ul>	
4 画前の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級会当日の朝の会で、学級活動コーナーに貼った短冊について説明させ、給食の時間(会食)にグループで短冊の案について話題にし問題意識を高めておく。</li> <li>学級会前の休み時間に、黒板等への掲示などの準備をする。</li> <li>低学年は、教師も進行係も、いわゆる首からさげる係れを用意し、中学年からは机の上に表示を置くようにするなど工夫する。</li> <li>「出し合う」「比べ合う」「まとめる」の表示を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級会当日の朝の会で、学級活動コーナーに貼った短冊について説明させ、給食の時間(会食)にグループで短冊の案について話題にし問題意識を高めておく。</li> <li>学級会前の休み時間に、黒板等への掲示などの準備をする。</li> <li>低学年は、教師も進行係も、いわゆる首からさげる係れを用意し、中学年からは机の上に表示を置くようにするなど工夫する。</li> <li>「出し合う」「比べ合う」「まとめる」の表示を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級会当日の朝の会で、学級活動コーナーに貼った短冊について説明させ、給食の時間(会食)にグループで短冊の案について話題にし問題意識を高めておく。</li> <li>学級会前の休み時間に、黒板等への掲示などの準備をする。</li> <li>低学年は、教師も進行係も、いわゆる首からさげる係れを用意し、中学年からは机の上に表示を置くようにするなど工夫する。</li> <li>「出し合う」「比べ合う」「まとめる」の表示を活用する。</li> </ul>	
5 学級会 (開始から話し合いの加まで)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1はじめの言葉</li> <li>2歌</li> <li>3計画委員の紹介</li> <li>4提案理由等の確認</li> <li>5めあて</li> <li>6先生の話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開会宣言に続いて全員で立って大きな声で歌を歌う。</li> <li>入学当初は、黒板の前に集めて教師が進めるが、徐々に会議形式(いわゆるこの字)で行う。</li> <li>短冊などを司会と一緒に全員で読む機会を多くする。(黒板記録が指示棒でなぞるのに合わせて)</li> <li>1年生では教師が進め、進行のモデルを示し、徐々に児童の役割を授けやしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開会宣言の「役割の自己紹介」は、立って「名前とめあて」を言う。その際、一人一人に(あるいは、計画委員の紹介が終わったら)全員が拍手をおくるようにする。</li> <li>「提案理由」「プログラム」「決まっていること」「準備日程」などの資料を用意する。</li> <li>することもあがるが、あまり繰り返す必要はないようにする。</li> <li>「先生の話」では、前回「次の課題」にしたことを中心に話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開会宣言に続いて全員で立って大きな声で歌を歌う。</li> <li>入学当初は、黒板の前に集めて教師が進めるが、徐々に会議形式(いわゆるこの字)で行う。</li> <li>短冊などを司会と一緒に全員で読む機会を多くする。(黒板記録が指示棒でなぞるのに合わせて)</li> <li>1年生では教師が進め、進行のモデルを示し、徐々に児童の役割を授けやしていく。</li> </ul>

(話し合い)

- 基本的には、「3つの柱」と「3段階討議法」を進め、柱1は、幾つかの案を短冊にしておき、「比べ合う」から話し合うようにすると効果的。
- 1年生の初期は、例えば一時間の前半で話し合い、後半で活動するなど工夫し、徐々に基本型を指導する。柱2は「どんなややくそくがあったらいいか」で話し合うようにし、徐々に「だのしくする工夫」なども経験させる。
- 教師の助言は、司会にヒソヒソではなく、全体への指導として話す。
- 柱ごとの時間配分は、中学年以上で時計マークなどで大まかな見通しを立てるが、時間による決定を急がず討議を優先する。(司会が「時間になっていきますよ、いいですか?」などと言って進める。)
- 「比べ合う」は、賛成意見を理由を付けて発表していき、やがて疑問点や心配な点などを反対意見があれば出させ、その解決策を話し合うようにし集団討議の充実に目指すようにする。
- 柱1・2の話し合いが「共有化」のための助言をし、中学年では、特に分類は計画委員会で自主的に行うことができるようにする。
- 「ほくほく」は「私は」の発言だけでなく、友達の発言に触れ、友達の気持ちや考えを言がでるよう状況に応じて適切な助言をする。
- 司会は、誰かが発言した後「あの方がどうございました」と言うこと。また、低学年では教師が司会の一人になり児童と一緒に話し合いを進行するが中学年からは司会同士で相談しながら進められるようにする。
- 話し合ってから決定する段階で、少数意見を尊重する観点から反対意見や賛成の少ない意見(項目)に対して「〇〇さん、どうですか?」と司会が確認する。
- 黒板記録は、司会等と相談しながら記録の構造化を工夫し、「決定マーク」や「ありがどうマーク」などを効果的に活用できるようにする。
- 柱3は、議題や話し合いの見通しから「どんな役割が必要か」や「役割分担をしよう」などと話し、進め方は簡略化を図るなど工夫できるようにする。

(決まったこと  
の確認)

- ノート記録から、柱1～3でそれぞれの決まったことを発表する。(低学年は、指示棒のなぞりに合わせて全員と一緒に読むのも効果的。)
- 決まらなかつたことがあがる場合は、その扱いを司会が先生に確認して全体に伝える。(例えば、翌日の朝の会でするのか、始業前の「学級タイム」で決めるのか、など)

(ふり返り)

- 司会から、「ノートを出してふり返りを書きましよう」と言い、時間内で発表してもらうことになっている場合は発表を促す。時間が無い場合は、帰りの会などで発表し合うなど工夫できるようにする。

(先生の話)

- 「先生の話3原則」(①前回よりよくなったことを賞賛する、②次回への課題を示す、③計画委員へのねぎらい)を基本にする。(その後、適宜個別に察めたり助言したり指導する。)

6 決定事項など  
の扱い

- 決定事項などは、背面黒板(「学級活動コーナー」)などに掲示し、帰りの会などで学級の全員に知らせたりする。

(留意事項)

- 活動計画の用語や司会等の発言マニュアルなどは発達の段階に応じて作成する。
- 各種グッズの作成と効果的な活用について工夫する。
- 低学年は、歌を歌ったり(伴奏や指揮も)、議題などを全員で一斉に読んで、動機も取り入れたりするなど工夫する。
- 常に、選定活動については学年会などで議題にし教師間の情報交流と研究に努める。
- 例えば、柱3が未解決になった場合や話し合いのオリエンテーションなどをとする時間として「朝の会・帰りの会」や「始業前の〇〇タイム」(学校創設の時間)などを活用する。

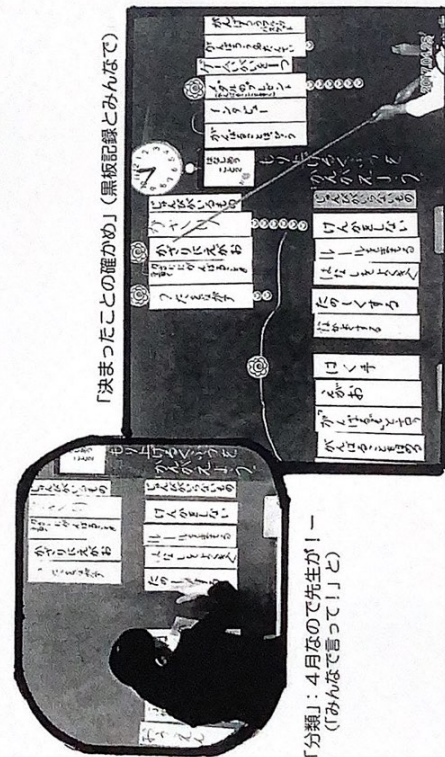


【学級会（本時）における指導・助言】

1 「本時における話し合いの指導助言①」一柱1・柱2の「分類」の指導

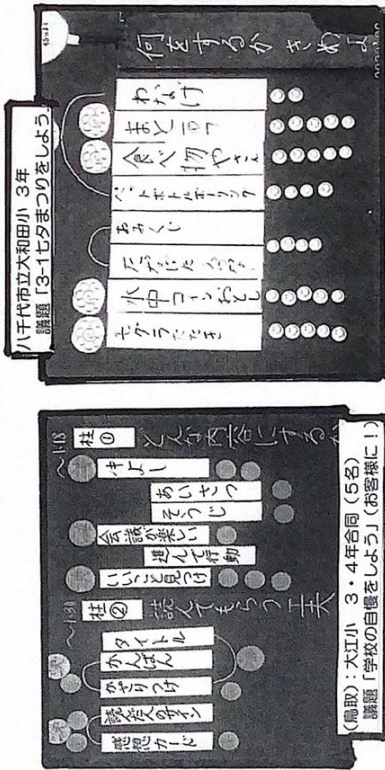
- (1) 柱1は、「分類」して短冊を貼る  
→ 「3つの柱」①出し合う、②比べ合う、③まとめる（決める）の話し合いの  
実習を目指すことから、柱1は、事前に話し合った意見（短冊）を比べ合う  
ことから始めたい。（朝の会などで、柱1の意見（短冊）について、説明した  
り、質問したりしておく。）  
→ 柱1の短冊を貼る際に、例えば、「ゲーム面白い」と「ゲームが嫌い」にするな  
ど「分類」して貼る。  
（事前に、両方考えるよう助言しておく。）
- (2) 柱2は、意見（短冊）を出しきったら、「分類」をする  
→ 例えば、「準備がいるもの」、「準備がいらないもの」、「その他」などに。  
（準備がいるものなど、特に問題になるものがない場合は、「準備がい  
るもの」を話し合うようにする。）  
→ 低学年は、教師が分類するが、児童に問いかけながら一緒に分類していく。  
中・高学年は、例えば、黒板係が全員に確認しながら分類する。

八千代市立大和田小学校2年 議題「2年生もがんばんろうね会をしよう」  
（社 眞実教諭の授業）



2 「本時における話し合いの指導助言②」一類似の考えの「合体」の指導

- (1) 同じような意見を「合体」して、どちらも生かす。  
（低学年では、「いすとりゲーム」と「フルーツバスケット」の案が出た場合は  
「合体」してみせる。あるいは、「フルーツバスケット」に決まった場合には、  
教師から「フルーツバスケットも、いすとりゲームですから、Oさんの意見  
も含まれていますね。」と。）
- (2) 安易な「合体」論には、指導が必要。イメージの共有化のための問いかけを。



3 「本時における話し合いの指導助言③」一「賛成意見」、「反対意見」の扱い

- (1) 「賛成意見」が連続したとき  
（教師：司会）「ちよっと、いいですか。どんな賛成意見が続いていますか、  
（プログラム案などをみるなどして）何か心配などないんですか？」
- (2) 「反対（心配）意見」からスタートしたとき  
（教師：司会）「一〇〇の会に相応しいのはどれかと考えるのだから、賛成意  
見から出し合いますよ。Oさんは、どれがいいですか？」と  
（※「もう少しみんなの考えを聞いてから反対意見を出して下さい。」）
- (3) 「賛成（心配）意見」が始めて出したところで、「反対意見」が出たとき  
（教師：司会）「〇〇さんお意見については、もう少しいろいろ意見が出されて  
から、解決策を考えたいと思います。〇〇さんいいですか？」

4 「本時における話し合いの指導助言④」～意見を繋げて解決を！

— 「よりよい解決の仕方の指導！」（集団討議の充実）

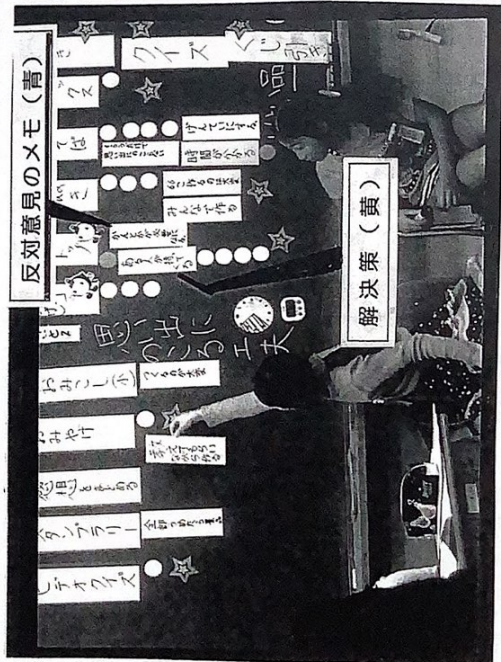
— 3の(1)や(3)で「心配（反対）な意見が出された場合の指導！

- (1) 児童1が、「〇〇に賛成が続いているんですが、それには、△△△という心配がありませんか？」と発言。  
↓
- (2) 黒板記録の児童が、心配（反対）の要点メモを貼る。  
（例えば、水色の用紙に書いて。）  
↓
- (3) 司会が「Aさんの意見の解決策はありませんか？」と全体に・・・。  
↓
- (4) 児童2が、「〇〇にしたら大丈夫じゃないですか？」と発言。  
↓
- (5) 黒板記録の児童が、解決案の要点メモを貼る。  
（例えば、黄色の用紙に書いて。）  
↓

※児童1と2～3人による意見交換があったあと、なんらかの解決が！

— 「僕は・・・」、「私は・・・」で賛成意見が続いて決まることがあってもよいが、異議応答や心配（反対）な点をめぐっての意見交換（繋がり）が行われる話し合いがあつてこそ、創意工夫や問題解決力を高める。本時における話し合いの場において、状況に応じた教師の助言（指導）を工夫したい。

【事例】：川越市立武蔵野小学校 4年 議題「思い出に残る秋祭りしよう」



資料19 学級会の議題例  
（平成26年以降の小中学校の実践例）

- ア 「学級の係を決めよう」（小・中）
- イ 「どうぞよろしくの会をしよう」、「〇年生もがんばろうね会をしよう」（小・中）
- ウ 「室内ミニオリンピックをしよう」（小）、「学年集会の出し物を決めよう」（中）
- エ 「遠足の歌集を作ろう」、「修学旅行の夜の集いの出し物を決めよう」（小・中）
- オ 「学級のボールの使い方を決めよう」
- カ 「触れ合いの森の施設で七夕祭りをしよう」（※中学校の事例）
- キ 「夏休み作品展の計画を立てよう」（小・中）
- ク 「2学期もがんばろうね会をしよう」
- ケ 「学級文庫をたのしくしよう」
- コ 「児童集会での学級紹介でどんなことを紹介するか決めよう」
- サ 「教育実習の〇〇先生にお礼の会をしよう」（小・中）
- シ 「6-1川柳発表会をしよう」
- ス 「学級新聞（学年）コンクールをしよう」（小・中）
- セ 「学級文化祭をしよう」、「文化祭の自由発表で何をするか決めよう」（小・中）
- ソ 「廊下のクラス紹介コーナーの使い方を決めよう」
- タ 「読書まつりをしよう」
- チ 「学級収穫祭をしよう」
- ツ 「学級カルタ（すごろく）をつくろう」（小・中）
- テ 「係の発表会をしよう」
- ト 「くみんなのいろいろアンケート」をやってみよう」（小・中）
- ナ 「自然教室の夜の集いの出し物を決めよう」（小・中）
- ニ 「2学期がんばったね会をしよう」（小・中）
- ヌ 「学校に紙芝居を作って残そう」
- ネ 「手作り楽器音楽会をしよう」
- ノ 「学級立志の会をしよう」（※中学校）
- ハ 「卒業文集のクラスページの内容を決めよう」（小・中）
- ヒ 「おじいちゃんやおばあちゃんによるこんでんどもらうくふうをかんがえよう」
- フ 「委員会活動の学級報告会をしよう」（小・中）
- ヘ 「鬼の面コンクールをしよう」
- ホ 「教室におひなさまを作ってかざろう」
- マ 「教育実習の先生に手紙を書こう」（※中学校）
- ミ 「今年の思い出カルタを作ろう」
- ム 「六カ年思い出アンケートをしよう」
- メ 「学級卒業を祝う会をしよう」（小・中）

等

### 4月の学級活動スタートのいろいろ

——「年度初めの学級経営・学級活動スタート7つの実践課題」への対応

- ① 「学級会オリエンテーション」から
- ② 「係を決めよう」から
- ③ 「どうしようの会をしよう」から  
(あるいは、「〇年生もがんばろうね会をしよう」)
- ④ 「〇年生になって」から  
(学級活動(2)イ・(3)アの統合的題材で) ※中は学級活動(2)ア等々

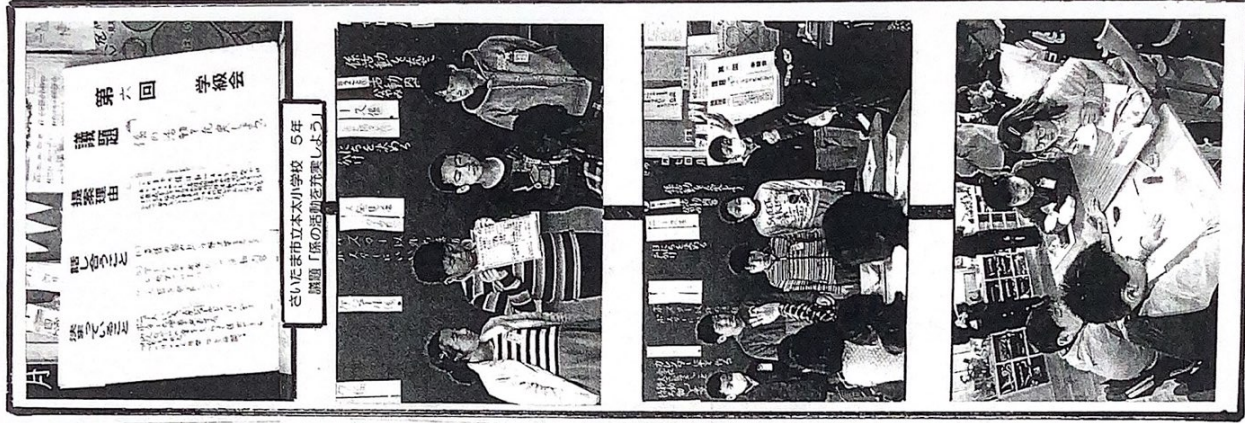
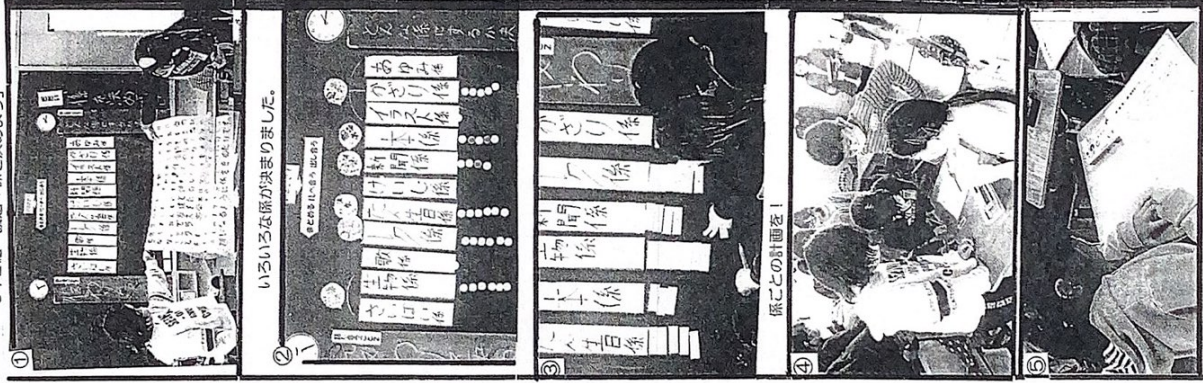
### 「係活動の指導」(オリエンテーションの資料)

係の指導	領域的区分	当番の指導
教育課程 (学級活動-集団活動)	指導① ねらい	日常の生活指導 (学級経営-集団指導)
(協力)	指導② ねらい 指導③ 形態 指導④ 組織等	(協力)
創意工夫 統括 児童・生徒(学級会)		手順通り・責任 交替(輪番) 教師(生活指導部等)

### 「4月の係決め」の学級会の展開例

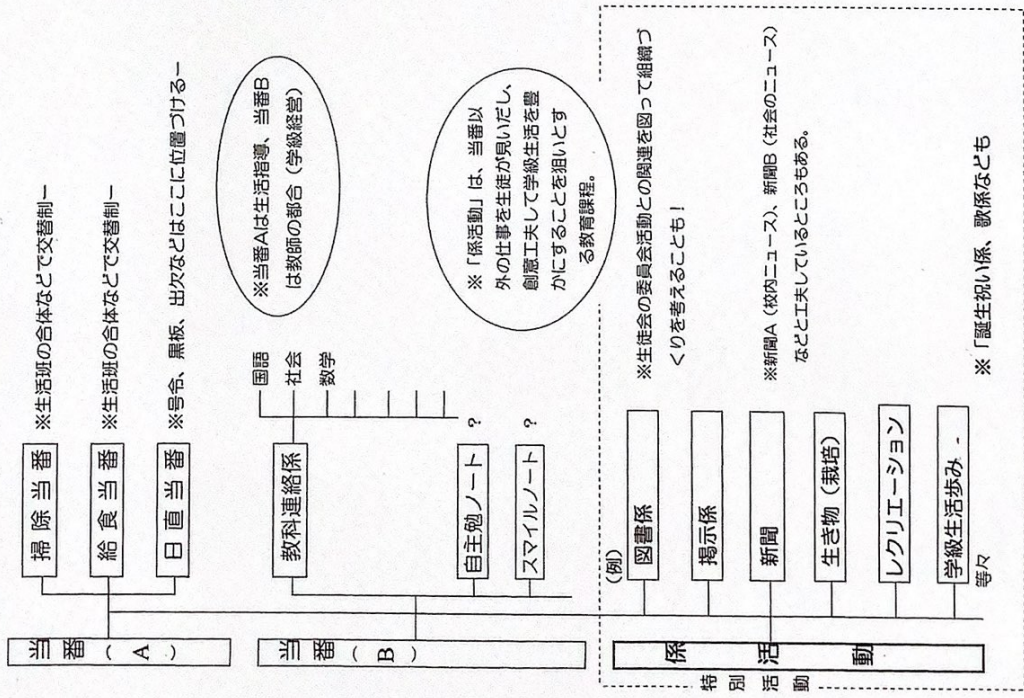
- A タイプ・・・(1)どんな係をつくるか  
(2)係の担当を決めよう
- B タイプ・・・(1)どんな係をつくるか  
(2)係ごとのおおよその人数を考えよう  
(3)係の担当を決めよう
- C タイプ・・・(1)どんな係をつくるか  
(2)係の担当を決めよう  
(3)係ごとの計画を立てよう

八千代市立大和田小学校  
5年2組 課題「係を決めよう」



### 学級の係と当番の組織表

(中学校の学級の組織の例)



### 「適宜のオリエンテーション」の工夫

型	内容及び方法など
A型	【学級会の意義・役割】 年度初めの学級活動(3)ア(※(2)イの関連も)の題材「〇年生になって」の中で、「理想の学級生活の実現」に向けた学級会の役割等を指導し、取り組みへの期待感を高める。
B型	【望ましい議題】 経験などから、「予想される議題」について話し合い、自発的、自治的活動の条件の理解も深めながら「望ましい議題」への関心を広げ、実践意欲を高める。
C型	【係と当番】 当番と係活動のねらいや方法の特質の理解を深め、発達段階などを踏まえて学年や学級の実際等を踏まえた適切な係を設定し、意欲的に活動できるようにする。
D型	【計画委員会の進め方】 計画委員会の活動「一週間の活動の流れ」にしたがって、議題の収集や学級会の事前の準備の仕方、司会進行のマニュアルの使い方をなどを練習し理解を深める。
E型	【話し合いの深め方】 「3つの柱」と「3段階討議法」などの基本型の意義と方法についての理解を深め、意見の述べ方や質疑応答など話し合いの仕方、折り合いの付け方などの練習をする。
F型	【学級会ノート(ファイル)の活用への助言】 「活動計画」に基づいて、学級会ノートに自分の考えを書かせる際に、例えば、(柱1)に関する考え方などを話題にし、活動へのイメージを持たせ問題意識を高める。
G型	【学期はじめ等における動機付け】 学期はじめ等に、学級会を通して楽しく豊かな学級生活を目標そうという意識・意欲を引き出す場(例えば、朝の会などで)を設定する。共通される議題などにも触れる。
H型	【学期末・学年末の活動】 学級生活や学級会の取組などを振り返ることの大切さを話題にし、楽しかったことや努力し成長した点などを学級会で認め合うことができるようにする。

#### 《A型からH型の実施の場や機会など》

- (1) A型における授業で扱う「理想の学級生活」への個人への考えは、事前に書かせておくこと。
- (2) B型は、(1)の実践の直後に例えば、始業前に行う「〇〇タイム」や朝の会等で実施する。
- (3) C型は、学級会「係を決めよう」の事前指導で行い、学級活動(3)アの授業の中でも扱う。
- (4) D型・E型は、始業前に行う「〇〇タイム」で実施し、学級会の前後などにも適宜行う。
- (5) F型は、学級会の前日などに行う。
- (6) G型は、始業式の日の学級における指導の時間や翌日の朝の会などに意図的に実施する。
- (7) H型は、学期末や学年末の1ヶ月ほど前の「〇〇タイム」や朝の会などに実施する。
- (8) 合体版で実施することも考えられる。例えば、B型とD型、D型とF型を「〇〇タイム」に実施するといった例が考えられる。

## 「学校童話集（6編）」の本を読んだ方々から

「やき先生の学校童話集」（1年生から6年生までの学級会物語）を出版して、これまでに次のような嬉しいお便りなどをいただいております。

- ア「このような特色ある児童書はこれまで出版されていませんでした。画期的です。是非、子供達に読ませたいので学校図書館用として6冊注文します。」  
 イ「現在、初任者指導に当たっているが、これまで指導してきた初任者や現在指導している初任者にプレゼントしたい。」  
 ウ「この本は、学級会物語となっていますが、学級経営の工夫も大いに参考になります。校内等の学級経営研修会に活用させていただきます。」  
 エ「学級会の案読らしさを知らない子供達、学級会やその指導のイメージが持てないで困っている教師があまりにも多いというのが実感。この本が早く全国の先生方に届くようにと願っています。」  
 オ「私は80歳になりました。今の学校を見ていると大変なようです。市内今こそ本市の子供達に、そして先生方に是非読んで欲しい本が出ました。市内50校に2冊ずつ贈りたいと思っておりますので100冊注文します。」  
 カ「いじめ問題、不登校、学級の荒れ・・・。学級会の荒寒で立ち直っている学校、未然防止になっている実態があるのに教育委員会等での研修が不十分。この本の物語はどれも実践事例とのこと。読んでみるよと念願と感懐されます。先生方に勧めます。」  
 キ「本を贈っていたから、まず私が一気に読み終えて先生方に回覧したら、ほとんど先生方が注文したいと申し出てくれました。」  
 ク「学校童話集を学級文庫に置いたら、子供達が我先にと争った後ジャンケンをして順番を決めて夢中で読んでいます。早速、議題を提案する子も・・・。」  
 ケ「市の研究会の役員会があります。そこでチラシを配りますので送ってください。こちらで増刷りをして配ります。それをそれぞれ学校の学校でも紹介するように勧めます。この本は、学級会オリエンテーションでも使えますね。」  
 コ「放送朝会で、学校童話集を贈呈していただいたことをお知らせすると、早速読んで児童が感想文を書いてくれましたのでお送りします。」  
 サ「サークルで購入し、月例会で勉強します。」  
 シ「クラスで読み聞かせをした翌日、「先生、昨日読んでもらった本の作者の宮川先生は、僕のババの担任だったんだって！」と子どもが叫びました・・・。」  
 ス「校長室登校をしている小6の男子児童に、「この本読んでみる？」と手渡すと、真剣に読み始め、読み終わるといつとも違って爽快な顔をして教室に向かい、この本を読んだ翌日からは教室登校になり、次第に近所の人にも参加し、日々積極的に活動しています。驚きです。この本に感謝です。」  
 セ「新聞で知り、ビックリです。早速書店に注文して購入しました。先生は眞話作家になったんですか？母にも送ったら感動して近所の人に自慢をしてみました。」  
 ソ「私は、来年教員になるためにやき先生の講演をお聞きし、この本を手に入れたいです。私の小学校時代にはこのような経験はありませんでした。大学でも学ばせてほしいです。何度も読んでみます。学級会の指導を通して学級生活を生き生きさせるイメージができました。」  
 タ「この本を読んで、集団活動を生かした学級づくりの必要性を実感し、高津全小中学校と講師（宮川）をオンラインで結んで研修会を実施することができました。感謝です。」  
 チ「先日の6年生の学級会の授業で、柱2の「思い出しに輝くようにならねよう」の話し合いで、「学級文庫にある本の紙芝居作りのように、僕たちも紙芝居を作って学校に強さをやりますか」という意見が出て、賛成が続きました。早速、学級文庫に学校童話集を入れた成果が出ました。」  
 ツ「5年生の国語の「本に帯を付ける学習」で、この本に帯を付けて発表した児童がいます。(笑)には(学級会をいっばいするクラスにおすすすめ！読んでからお手本になる。)(背)（助け合いと思いやり、(裏)（自分達も学級会をや、1年間工夫している。この本はワクワクする物語！(一(船))と書いていました。」

## 資料25 ( 研究校における成果等 )

- ・親和的、協働的な人間関係が生まれ、学級（学校）に明るい雰囲気が増える。  
(男女差別なく、互いの気持ちを分かち合い、誰とも協力し合う)
- ・話し合っって創意工夫し合い、創造的に問題を解決しようとする態度が育つ。  
(普段の生活や係などの活動、教科学習などでも学級会の経験が生かされる)
- ・不登校や欠席が減少する。  
(学級会や係の活動を楽しみにし、欠席者（不登校者）が大幅に減少する)
- ・自己有用感や自己肯定感が高まる。  
(学級会の実践活動や係活動で誰もが自ら役割を分担する経験が役割貢献意識を高める)
- ・自発的な態度や学習意欲も向上する。  
(進んで思いや願いを表現したり、役割等を引き受けようとし、教科等や委員会などの話し合いも活発になる)
- ・全国学生の国語B等のポイントが上がる。  
(全国や県等の成績や学習状況調査の多くの項目で向上が見られる)等々

## 資料26

## 「小中一貫の学級活動」に取り組んだことによる成果

黒崎北中学校の「生徒の愛容・教師の関わり方の推移」(文責＝山崎、吉澤)

- 以前と比べて生徒主体の活動が定着してきた。
- 学級内で意見が分かれた時でも、自分のわがままを押し通そうとする生徒が減った。
- 相手の意見と折り合いを付けて結論を出すことができるようになった。
- 個人のわがままな言動が減り、問題行動が減少した。
- 話し合いによって自分たちの意見が生活に反映されることが増えたことで、自治的な活動が増え、生徒の規範意識が高まっている。
- 学級だけでなく、生徒会や専門員会、部活動においても円滑な話し合いを行うことができるようになってきて、活動の活性化に繋がっている。
- 中学校区で協力して話し合い活動の推進に取り組んでいることで、全教師が一貫した指導を行うことができるようになり、中1ギャップの解消に繋がっている。
- 教科においても「○○です。理由は～です。」と根拠立てて自分の考えを発言することが身に付いてきた。
- 教科科での3人組（4人組）の授業の話し合い（学び合い）にも、積極的に取り組むようになり、学力向上に結びついている。